

児童委員・主任児童委員活動事例④

「地域で見守り見守られ～子ども民生委員の取組～」(高知県土佐清水市)

高知県土佐清水市の主要データ

基礎データ (平成31年1月現在)	人口:13,660人 世帯数:7,327世帯 学校数:公立小学校6校、公立中学校1校
児童委員・主任 児童委員の数	児童委員:定数69人/委嘱者数68人 主任児童委員:定数5人/委嘱者数4人

取組(活動)概要

小学校5・6年生が、総合学習の時間を利用し、月1回、小学校周辺地区の一人暮らしの高齢者を訪問し、安否確認と交流を行っている。訪問を終えると各々が訪問記録を作成。班ごとに社会福祉協議会へ報告し、何か心配なことがあれば、社会福祉協議会から地域包括支援センターへ連絡等対応することとしている。近況や体調を訊ね、学校行事の案内や手作りのプレゼントを持参。また、地区を歩いて訪問し、避難路や危険箇所も確認している。年度末の学習発表会では、地域の方々に活動報告している。

取組(活動)の主催団体

土佐清水市立下川口小学校、土佐清水市下ノ加江小学校、土佐清水市社会福祉協議会、土佐清水市民生委員児童委員協議会

主な実施場所

下川口小学校、下ノ加江小学校周辺地区

児童委員・主任児童委員の役割、関わり

年度初めに民生委員の仕事についての授業と子ども民生委員任命式へ参加し、児童と交流を深める。地区担当民生委員は、第1回訪問前に訪問先の情報や注意点を伝え、初回訪問に同行し、児童と高齢者を繋いでいる。主任児童委員は時々同行し、児童と高齢者のかかわりの様子を見ている。

取組(活動)のきっかけ、経緯

「民生委員・児童委員活動の周知を図りたい」「子どもたちの福祉教育の取組ができないか」という主任児童委員と、「子どもが高齢者とかかわることを望んでいる」という小学校長の思いが合致し、平成25年1月、子ども民生委員の取組みが始まった。小学校、社会福祉協議会、主任児童委員が内容を協議し、『福祉』や『地域の現状』、『民生委員の仕事』について授業を行い、その後、ひとり暮らしの高齢者の訪問することとなった。

取組(活動)のポイント、留意点

児童が主体的に活動できるように配慮する。子どもが考え、困ったときには相談にのる形を取っている。子どもたちの気づきを大切にするとともに、児童たちが訪問で気づいたことや心配に思ったことを受け止め、一緒に考える。

取組(活動)による効果

子どもたちの日常の会話に高齢者の話題が上る。子どもたち自身が地域の一員として、見守りの役割を担っている自覚をもてるようになった。子どもは、喜んでもらえるにはどうしたらよいか、会話が弾むにはどう話せばよいか、訪問時の工夫を考え、高齢者は、子どもからのプレゼントを玄関に飾り、その訪問を心待ちにしている。

今後の展望・課題

子どもの数が減少し、参加する5.6年生にも負担がかかっている面がある。学校での取組が重要であり、学校や地域の多方面へ発信することが重要である。
子ども民生委員の取組は、子どもを地域の一員として捉えてた活動である。地域を知り、人を思いやること、防災活動にもつながる等、子どもたちが自分自身を大切に、自らの権利とともに社会へ参画することがうれしい体験となり、生まれ育った地域が心の根っこ(ふるさと)になる。今後も様々な地域でその地域に即した子ども民生委員活動が広まることを願っている。

